

2021年11月06日

各府県関係各位

兵庫県アイスホッケー連盟
担当理事 戸澤 哲也

2021_U14-U16ウエストブロックセレクトキャンプのご案内

拝啓、貴連盟におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素は、当連盟の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
さて標題の件につきまして、8月開催はコロナ禍で延期を余儀なくされておりましたが
感染対策ガイドライン策定のもと、下記日程にて開催いたしますので
ご案内させていただきます。

敬具

記

【開催期間】 2022年1月15日（土）～1月16日（日）
【開催場所】 滋賀県立アイスアリーナ

【アイスタイム】 1月15日（土） 19：00～20：30
20：45～22：15
1月16日（日） 17：15～18：45
19：00～20：30
20：45～22：15

※アイスタイム以外の時間で陸上トレーニングや座学等予定しています。

【参加対象選手】 日本アイスホッケー連盟に登録している
中学1年生～中学3年生の男子

【参加費】 10,000円（当日集合時に集金致します）
※宿泊は伴いません。
※基本通いでのキャンプとなります。

【持参品】 筆記用具、
ドリンクボトル（練習中は個人で飲み物を用意して下さい）
コーチがわかるようにヘルメットに名前を貼り付けて下さい。

以上

スクリーニング検査について

男子U16-U14ブロックキャンプ全参加者（選手、JIHF スタッフ、運営スタッフ）を対象に、新型コロナウイルス抗原検査キットを使用したスクリーニング検査を実施いたします。

参加者全員が一致団結して感染症対策を行い、安心安全なキャンプとなるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

1. 抗原検査について

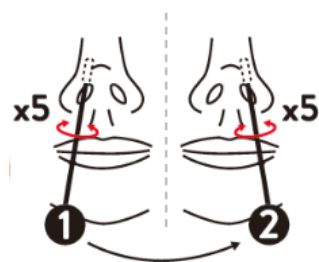
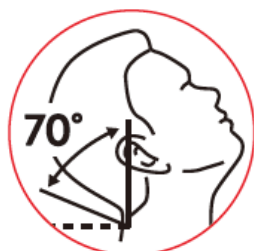
- (1) 簡易キット「SARS-CoV-2 ラピッド抗原テスト（鼻腔ぬぐい液用）」を使用する。
- (2) 検査対象者は、キャンプに参加する選手、JIHF スタッフ、地域推薦コーチ、運営スタッフとする。
- (3) 検査キットは日ア連で用意し、キャンプ前に担当連盟へ送付する。
- (4) 大会参加の当日の検査実施を原則とする。
- (5) キャンプ受付時にキットを受け取り、自家用車の中もしくは各自距離を保って検査を実施する。
検査結果が陰性の場合には受付に提示し、陽性の場合には受付で指示のあった電話番号に報告する。
- (6) 使用した検体容器は、ビニール袋に入れ、しっかり口を締め、各自家庭ごみとして処分する。
(陽性反応が出た検体容器は、手袋を着用し複数回厳重に密閉し破棄すること。)

2. 検査結果とキャンプ参加について

当日の検査において、陽性者となった選手およびスタッフはキャンプに参加することはできない。
また陽性者と検査前2日間に濃厚接触が疑われる選手も同様に参加を見送りとする。

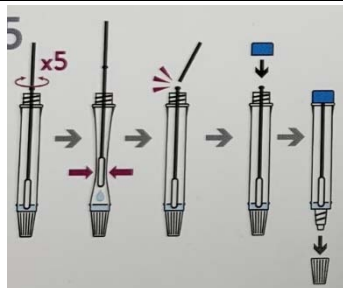
3. 検査キットの操作方法

- (1) 抽出液ボトルを垂直に保持し、抽出液 300 μ L を検体抽出容器の上限ライン（300 μ L）まで加える。※およそ7~9滴
注意：抽出液が多すぎる場合や不十分な場合、適切な結果が得られないことがある。
- (2) 検体を採取する。（本品は鼻腔ぬぐい液を検体として使用する。）
 - ① 頭部をわずかに後ろに70°傾ける。
 - ② 滅菌綿棒を鼻孔にゆっくり挿入していき、最初に抵抗を感じる部分（鼻甲介部、約2cmの挿入）まで到達させる。
 - ③ 鼻腔壁を擦る様に5回転させる。
 - ④ 滅菌綿棒をゆっくりと取り出し、同じ綿棒でもう一方の鼻孔で検体採取を繰り返す。



- (3) 検体抽出容器中の抽出液に、検体採取後の綿棒の綿球部分を浸し、管壁に押し付けながら、少なくとも 5 回は回転させる。その後、検体抽出容器の外側から綿球を指で押さえながら、検体を搾り出す。
- (4) 綿棒の軸のブレークポイントで軸を折り、検体抽出容器キャップをしっかりと閉める。

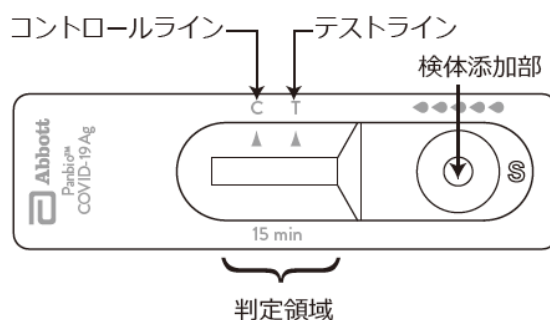
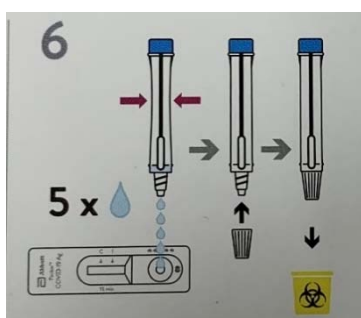
注意：必ずキャップをしっかりとしめること。



- (5) アルミ袋からテストデバイスを取り出し、平らな面に置く。
- (6) 検体抽出容器の滴下ノズルのキャップを開け、試料液 5 滴をテストデバイスの検体添加部に垂直に滴下する。反応が終了するまでテストデバイスを動かさないこと。

注意：検体抽出容器内での泡の発生は不正確な結果を導く。適切な液滴が作られない場合はノズルのつまりが考えられるため、つまりを取るためチューブを軽く振る。

使用済み検体抽出容器は滴下ノズルのキャップを閉めてから廃棄する。



- (7) 15 分後にテストデバイスの判定領域を観察し、ラインの有無により判定する。

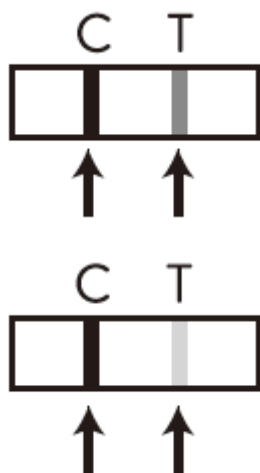
注意：反応から 20 分以上経過したテストデバイスは判定に使用しない。

- 操作手順は、操作方法に従って行うこと。
- 検体の採取および取扱い時に、検体が飛散したりこぼれたりした場合には、すぐに消毒用アルコールまたは次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度 1,000ppm）を用い処理すること。
- 使用前の滅菌綿棒の先端部分には直接手で触れないこと。
- テストデバイスは使用直前にアルミ袋から取り出し、速やかに使用するし、再使用しないこと。判定領域を直接手で触らないこと。

4. 検査結果の判定

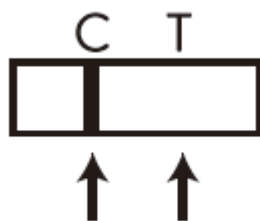
(1) SARS-CoV-2 陽性 (+)

テストライン (T) およびコントロールライン (C) にラインが認められた場合



(1) SARS-CoV-2 陰性 (-)

コントロールライン (C) にのみラインが認められ、テストライン (T) にはラインが認められなかった場合



(2) 判定不能 (再検査)

コントロールライン (C) にラインが認められなかった場合は、たとえテストライン (T) が認められたとしても、検査は無効である。別のテストデバイスを用いて再検査すること。

検査方法やキャンプに関する当日の連絡先

《JIHF 事務局》木村 電話番号 07069402684 《トレーナー》電話番号